氏名	人 見 文 雄
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第1044号
学位授与の日付	昭和54年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**難治性胃潰瘍とCandida albicans との関り合いに関する研究** **第1編 蛍光抗体法によるヒト胃潰瘍組織部Candida albicans の免疫組織学的研究** **第2編 Rat実験胃潰瘍底部真菌の免疫組織学的研究**
論文審査委員	教授 木村 郁郎 教授 大藤 眞 教授 金政 泰弘

学位論文内容の要旨

蛍光抗体法およびPAS反応を用いて，難治性潰瘍をもつ胃潰瘍，胃癌の新鮮切除胃47例について検索した結果，その潰瘍底にはC. alb.，あるいはC. alb.と共通抗原を有する物質を貧食している組織球を多数みとめた。これらの細胞は潰瘍底のみならず，広く胃壁に分布していた。これらの事実は胃壁におけるC. alb. に対する生体の反応と解され，潰瘍の難治性と何らかの関り合いがある可能性を示唆させた。

つぎにwister系Ratにclamping-cortisone法により作製しえた実験胃潰瘍にC. alb. を経口投与し，第4週及び第13週後に屠殺しその潰瘍部の蛍光抗体法による免疫組織学的検索をおこなった。その結果第4週屠殺群において，その潰瘍底にはC. alb. が多数みられ，その周囲に反応性炎症性細胞の浸潤とC. alb. 貧食したと考えられる蛍光陽性の組織球がみとめられ，さらにその組織球の一部は胃組織間にも遊走しているのがみられた。これらの事実は胃壁におけるC. alb. に対する生体の反応がヒトと同様にRatにおいてもおこることを証明したことになる。さらに第13週屠殺群においては潰瘍底の膠原線維の発育度がclamping-cortisone法による実験潰瘍より低下していた。このことはC. alb. による潰瘍治癒遷延作用の現われと解される。

論文審査の結果の要旨

本研究は胃潰瘍とCandida albicans との関係について実験的並びに臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった潰瘍局所におけるcandida albicans の役割について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。